

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 足立小学校 校長 角田 成隆

1 学校教育目標

- ①よく考えずすんで学ぶ子：自ら考え、学習にねばり強く取り組む子
 ②やさしさと思いやりのある子：やさしさと思いやりをもち、共に力を合わせる子
 ③明るく元気な子：自分のよさを発揮し、自分や友だちを大切にできる子

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ①児童の読書活動を通して、語彙力を増やし、活用できる知識を身に付けさせる。
 ②各教科の学習活動において、図書資料を有効活用して本に触れる機会を増やし、課題解決できる能力を育成する。
 ③児童が読書習慣を身に付け、自主的に読書を楽しめるよう、日常的に学校図書館を活用する。
 ④学校図書館支援員や図書ボランティアと連携し、本の読み聞かせを行ったり図書に関わる環境の整備を工夫したりして、児童の読書に関する興味と関心を高める。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 12,904 冊（蔵書基準冊数 11,160 冊）／ 蔵書率 116.4%									
	② 新規購入図書 721 冊 / 廃棄図書 653 冊 / 増減冊数 68 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.6	1.2	6.4	7.6	9.7	6.2	2.3	6.6	3.2	54.1
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	①開館時間：授業時、毎週月・木の中休み・昼休み、火の昼休み									
	②児童一人あたりの年間平均貸出冊数 29.4 冊（前々年度末： 18.1 冊）									
	③1か月に2冊以上読む児童 58.3%（前々年度末： 49.6%）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 12,279 冊（蔵書基準冊数 11,160 冊）／ 蔵書率 110%									
	② 新規購入図書 911 冊 / 廃棄図書 1,628 冊 / 増減冊数 -717 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.6%	1.4%	7.7%	7.0%	11.1%	6.8%	3.1%	7.1%	3.6%	49.7%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間： 9:00～15:45（前年度からの変更 あり ・なし）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 33.1 冊（前年度末： 29.4 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 56%（前年度末： 58.3%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	①自分で読みたい本を選び、読書を楽しむことができる。 ②学校図書館の利用の仕方を理解し、正しく利用することができる。	
今年度の成果目標		達成基準
①国語の学習と関連した本を学校図書館で探し、読書をする。 ②学校図書館の利用の仕方について知る。		①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②学校図書館オリエンテーションを実施した学級100% ③年間一人あたり30冊以上の本を読む。
目標達成状況		
① 各クラス週1回、学校図書館を利用し、学校図書館支援員による読み聞かせと本の貸し出しを行った。 ② 支援員によるオリエンテーション（本の借り方、返却の仕方、書架の戻し方）を行った。 ③ 年間一人あたり59.9冊の貸し出しがあった。		

第2学年	①自分から読む本の幅（図鑑から、童話や物語など）を広げ、読書を楽しむことができる。 ②学校図書館の利用の仕方を理解し、正しく利用することができる。
今年度の成果目標	達成基準
①国語の学習と関連した本を学校図書館で探し、読書をする。 ②学校図書館の利用の仕方について知り、意識することができる。	①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり50冊以上の本を読む。
目標達成状況	
① 各クラス週1回、学校図書館を利用し、学校図書館支援員による読み聞かせと本の貸し出しを行った。 ② 年間一人あたり56.5冊の貸し出しがあった。	
第3学年	①自分から読む本の幅を広げ、読書を楽しむことができる。 ②学校図書館が各教科の調べ学習でも利用できることを知る。
今年度の成果目標	達成基準
①国語の学習と関連した本を学校図書館で探し、読書をする。 ②本の配架を理解し、調べ学習に関連する本を探すことができる。	①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり50冊以上の本を読む。
目標達成状況	
① 各クラス週1回、授業にて本の貸し出しを行った。 ② 年間一人あたり39.1冊の貸し出しがあった。	
第4学年	①自分から読む本の幅を広げ、読書を楽しむことができる。 ②学校図書館が教科学習等でも利用できることを知り、進んで活用する。
今年度の成果目標	達成基準
①国語の学習と関連した本を学校図書館で探し、自分の興味のある本についても読書することができる。 ②本の配架を理解し、調べ学習に関連する本を探すことができる。	①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり30冊以上の本を読む。
目標達成状況	
③ 各クラス週1回、授業にて本の貸し出しを行った。 ④ 年間一人あたり33.7冊の貸し出しがあった。	
第5学年	①読書によって自分の考えを深めたり、興味のある分野の知識を広げたりしようとする ことができる。 ②適切な選書をし、必要な知識や情報を図書から得る。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある分野について、読み物から図鑑、資料集や新聞など、情報収集の対象を広げて読むことができる。 ②適切な選書から、自分の調べ学習の課題に必要なことを読み取ることができる。	①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり20冊以上の本を読む。

目標達成状況	
① 半年に1回程度、授業にて調べ学習を行った。 ② 年間一人あたり14.7冊の貸し出しがあった。	
第6学年	①読書によって自分の考えを深めたり、進んで興味のある分野の知識を広げたりしようとする ことができる。 ②適切な選書をし、必要な知識や情報を図書から得て、活用することができる。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある分野について、読み物から図鑑、資料集や新聞など、情報収集の対象を広げて読むことができる。 ②適切な選書から、自分の調べ学習の課題に必要なことを読み取ることができる。	①各クラス月2回以上、授業で学校図書館を利用する。 ②年間一人あたり20冊以上の本を読む。
目標達成状況	
① 半年に1回程度、授業にて調べ学習を行った。 ② 年間一人あたりの貸し出しは4.9冊と積極的に本を読む児童とあまり読まない児童の差が大きい。	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ①分類構成割合に気を付けながら、新規購入図書の選書をする。 ②図書準備室にある複数本や廃棄本の整理をする。 ③絵本を低学年児童が探しやすい場所に並べたり、高学年児童が興味をもちそうな小説をカウンターの目立つところに配置したりするなど、児童の実態に合わせた配架の工夫をする。	① 分類構成割合に気を付け、新規購入図書の選書をした。 ② 複数本や廃棄本の整理をした。 ③ 児童が本を手に取りやすいよう、学校図書館支援員や図書ボランティアとの連携し、児童の実態に合わせた配架の工夫を行った。「おすすめの本」を手に入る児童が増えた。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ①管理職の承認を得た上で学校図書館支援員の業務を明確にし、各担任からも直接問い合わせがしやすいようにする。 ②業務に学校図書館オリエンテーションなどを盛り込み、学校図書館支援員の専門性を生かした関わりを児童ともてるようにする。 ③図書主任・学校図書館支援員・図書ボランティアの情報交換を積極的に行い、環境整備を常に更新する。	① 月1回の学校図書館支援員との会議により、業務内容や授業の進捗についてなど共通理解を図った。 ② 1・2年生、ひまわり学級を対象に学校図書館オリエンテーションや毎時間の読み聞かせを行い、図書支援員との関わりをもてた。 ③ 図書主任・学校図書館支援員・図書ボランティアの情報交換をこまめに行い、行事や授業内容に合わせた環境整備に努めた。
【その他】 ①調べ学習については、学校図書館と同時に区立図書館等の関連機関とも連携し、団体貸し出し制度なども活用する。 ②調べる学習コンクールへの積極的な参加を教職員と児童に促す。	① 2年生を対象に地域の図書館の「出張おはなし会」を依頼した。地域の図書館の利用やおすすめの本の紹介により、読書への意欲を高めることができた。 ② 調べる学習コンクールへ参加する児童は全校で6名と少なかった。次年度はさらに全校に周知できるようにする。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

学校図書館支援員の勤務日が週4日となったこともあり、休み時間に図書館に足を運ぶ児童、自分の読みたい本をすすんで探す児童が増えた。また、学校図書館支援員による低学年の児童への読み聞かせにより、読書への意欲が高まった。しかし、高学年の児童は授業で活用する機会が少なく、貸し出し数が伸びなかった。

次年度も本を読む児童が増えるよう、本を読む楽しさについて学校図書館支援員や図書ボランティア、図書委員会と連携して掲示を工夫し、児童に伝えていく。今年度は、調べる学習コンクールに参加する児童が少なかった。全校で調べ方やまとめ方について指導し、参加を促していく。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

定期的に図書ボランティアや学校図書支援員による読み聞かせを行っていることや、貸し出し冊数が増加したことで、読書活動に関心を持つ児童が増えたと考えられる。

本を読むことの楽しさや面白さを感じられるように、これからも児童が様々な本を読むきっかけとなる機会を増やしてほしい。